

.....1.3.....

期待値

定義 1.11 X を確率変数とし, g を実数値関数とする. このとき, $\int_{-\infty}^{\infty} |g(x)|f_X(x) dx < \infty$ (X が連続型) もしくは $\sum_x |g(x)|f_X(x) < \infty$ (X が離散型) が満たされるとき, $g(X)$ の期待値は存在するといいい, $g(X)$ の期待値を

$$\mathbb{E}[g(X)] = \begin{cases} \int_{-\infty}^{\infty} g(x)f_X(x) dx & X \text{ が連続型} \\ \sum_x g(x)f_X(x) & X \text{ が離散型} \end{cases}$$

で定義する.

期待値の基本的な性質

- (i) $\mathbb{E}[ag_1(X) + a_2g_2(X)] = a_1\mathbb{E}[g_1(X)] + a_2\mathbb{E}[g_2(X)]$. ただし, a_1, a_2 は定数.
- (ii) すべての x に対し, $g(x) \geq 0$ ならば, $\mathbb{E}[g(X)] \geq 0$
- (iii) すべての x に対し, $g_1(x) \geq g_2(x)$ ならば, $\mathbb{E}[g_1(X)] \geq \mathbb{E}[g_2(X)]$
- (iv) すべての x に対し, $a_1 \leq g(x) \leq a_2$ ならば, $a_1 \leq \mathbb{E}[g(X)] \leq a_2$.